

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	伊万里市立伊万里中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」を提示し、「まどめ」を行う授業スタイルが確立しており、教員、生徒共に同じ認識のもとに進めることができた。来年度は基礎学力を向上をさせることで、「学びに向かう姿勢」、「主体的に学ぶ態度」の向上を図る。 ・感染症の影響もあり、十分なキャリア教育を行うことができなかった。各教科のキャリア教育の計画を見直し、生徒が将来についての展望がもてるような内容を実施していく。 ・各学年主任を中心に学年部会を有効活用し、総合的な学習、特別活動、道徳、生徒指導等が効率よく行えるようにし、職員のグループワークを進める。 ・業務の精選、効率化を推進し、時間外在校時間の削減を図る。
2 学校教育目標	『誇りをもち、自ら考え、行動する生徒の育成』 ～「やる気・根気・負けん気」の醸成を通して～ (校訓「涓水精神」○形を正す ○挨拶をする ○負けじ魂を持つ ○物を大切に作る ○思いやりの心をもつ)
3 本年度の重点目標	(1) 分かりやすく、楽しい授業の展開 (2) 生徒指導の充実(先手必勝) (3) 心の教育の推進 (4) 家庭や地域、小学校との連携

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	実施結果		評価	意見や提言
				達成度 (評価)			
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践、わかる授業の実践等、授業力の向上 ○基礎基本の定着を図るための指導方法の工夫改善 ○家庭学習の時間の確保、学習の質の向上のための指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話し合う活動や書く活動を取り入れた授業を通して、理解が進んだり考えを深めたりすることができた」と回答する生徒70%以上。 ○1月の全学年実力テストにおいて、基礎基本の問題の正解率60%以上。 ○「平日の平均家庭学習時間」が30分未満の生徒0%、1時間以上の生徒70%以上、2時間以上の生徒50%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.2」を踏まえた、「わかる授業」、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業実践し、互いに参観し合い、授業力の向上を図る。 ・「家庭学習の指導の手引き」をもとに、取り組み方等について、習熟度に応じて教科担任や学年で細やかに指導する。また、家庭との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.2」を踏まえた、「わかる授業」、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業実践していると回答した教員100%。教員の意識が高まり、授業改善につながった。 ・「各教科の基礎や基本が身につくように、学習に取り組んでいる」と回答した生徒89%。中間評価時よりやや減少し、あきらめかけている生徒がいないが、年度末にかけてフォローアップをしていく。 ・「授業の中で、話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動を通して、理解が進んだり、考えを深めたりすることができている」と回答した生徒は90%で変化なしであった。多くの生徒が積極的に学習に取り組んでいる状況なので、来年度にもつなげていきたい。 ・「平日の平均家庭学習時間」が30分未満の生徒30%でやや減、1時間以上の生徒27%、2時間以上の生徒11%であった。「家庭学習の指導の手引き」をもとに、取り組み方等について指導をしている教員が59%で改善ができなかったため、今後の課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が「わかる授業」の実践に真摯に向き合っていると感じられる。その想いを生徒が受け止め、家庭での学習時間の確保につながってほしいと思う。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業を通して、自分の意見を周りに伝えたり、他者の考えを受け入れて自分自身を見つめ直したりする生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫し、振り返りの時間を十分に確保することで自分の考えを整理させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に集会や作文、標語作成が行えた。授業実践も各学年の担当を中心に行えた。とくに2年生では、地区同研の支援員に入ってもらい、授業検討を行った。 ・道徳の授業では、自分の意見を周りに伝え、他者の意見を聞くことで、自分の考えを見直し、人としてあるべき姿を考えたり、人間力を高めるきっかけになったことが、生徒の振り返りからうかがえた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを尊び思いやりの心を育む取り組みを計画的に実践されている。繰り返し実践し続けてほしい。 ・世の中に出る手前において、人権や人の意見を否定しない心の広い人格ある人間形成の教育をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの覚知・認知に対する対応マニュアルの周知 ・いじめ対応に関する研修会の実施 ・アンケート「心のとびら」の実施(毎月) ・教習組協議会との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で把握し得るものに関しては、早期発見と対応ができる体制ができている。また、いじめ発覚後は学校、生徒、保護者の三者による面談、生徒のケアを含めた継続的な面談、学年集会や学活等で取り扱うなど、再発防止に向けての対応ができている。また、SSW、SG、児相等との連携もとれている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連絡を取り、早期発見、適切な対応に取り組まれていると思う。 ・地域との連携として小学校との意見や情報交換を密にしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ●生徒が高校進学に向けて、自分を見つめ、自分の将来に向けた教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上(全学年) ●「自分が行きたい高校決まっている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化(生徒を中心とした活動の推進) ・キャリア教育の充実 ・職場体験学習の実施 ・進路学習やエナジードを用いた学習 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入試の実情を知ったり、面接練習をしったりすることで、ほとんどの生徒が自分の将来についてじっくりと考え、さらからの生き方と真剣に向き合うことができた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒は69% ・目標から1ポイント下回った。 来年度は、職場体験学習の実施を予定している。実際に働くことを体験することで将来に向けたイメージをもたせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生なら大きな夢を持つことも容易に近づくかもしれないが、中学生ともなると現実に近いので、将来の夢や目標を持つことはなかなか難しいのではないかと…とも思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ◎「涓水精神」(校訓)の指導徹底と善悪の判断・自律心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○「涓水精神」を心がけて学校生活を送っている」と回答する生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と連携して校則の見直しを行うことで、自己有用感と遵法精神高揚を図る ・掲示物や放送等で、生徒の善行などを知らせる ・登下校や学校生活、集会等で繰り返し指導・声かけを行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直しをよい機会ととらえ、学級での話し合いや総会での意見発表など自己有用感を体験できる場をより多く設定したり、掲示物や集会等での継続的な指導により集団生活を送る上で必要なことが社会生活にも役立つことを理解させたりして、伊万里中学校の自治に積極的に参加できる生徒を育成したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や物を大切に等、人として身につけるべきことを「涓水精神」として掲げていることは素晴らしい。この想いを生徒がしっかりと受けとめてほしい。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上 ○朝食を毎朝とっている生徒80%以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食週間を設定する ・栄養教諭による講話等の取組を行う ・生徒会活動を通して啓発を図る ・学級活動、保健、家庭科の授業に朝食の大切さについての学習を仕込む 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・給食週間は各クラスで給食にまつわる動画を視聴したり、栄養職員による講話を給食の時間に設定したことで生徒たちの食に対する意識が変わってきた。また、給食川柳を募集し、給食の時間に放送で紹介をしたりしたことで、生徒が給食の時間を楽しく感じていた。今後も生徒の実態に応じて、食の意識が高まるようにしていきたい。 ・最終的な食事に関する数値も90%を超えている。欠食をしないことや、健康に良い食事を心がけるなど、食事に関する意識を高く持ち、継続することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生きていくうえで欠かせない食事が欠食なくしっかりとバランス良くとれているとうかがえる。成長期には食育は必須だと思う。 ・伊中生徒の食に対する向き合いの高さに驚くともにも感じました。今後も食の教育を推進して下さい。
	<ul style="list-style-type: none"> ○心身の健康増進のための啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○病気や感染症の予防・対策を意識して実践している生徒85%以上を目指す。 ○運動習慣のある生徒75%を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に通信等を通して啓発や情報の発信を積極的に行う。 ・部活動による心身の健全な育成を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から手洗いやうがいなどの感染症対策ができおりその成果で、感染症の流行拡大が見られなかった。 ・昼休みや部活を通して活発的に体を動かしている生徒が多く見られた。その反面、遊びや部活に関連した、捻挫等のケガが多数あったため、ケガの予防等を啓発していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・うがい、手洗い、日々の運動により体をつくる、鍛えることは生涯必要なことであるため習慣づけてほしい。 ・適度な運動は心身のリラクスのためにも効果が大きく考えられるので文化部の生徒にも推奨してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日を定期退職日(部活動休業日)とし、タイムマネジメントの向上を図る。 ・部活動複数顧問の配置による業務分担 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の複数顧問による負担軽減につながっている職員85%。 ・自動採点システムの導入やキュルルの活用等、ICTの積極的な活用により、大幅な負担軽減となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自動採点システムの導入に感激した。業務効率が格段に良くなり、多忙な職員の時間外削減、負担軽減の一翼を担っていると感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ○行事、学級・学年事務、校務分掌事務等の精選、簡略化 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員、保護者、生徒、地域に対して様々な課題や情報、データ等の共有を確実にし、トラブルの未然防止に努めている職員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務システムの利活用促進 ・一人で抱え込まず、「報告・連絡・相談」の徹底 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数が多いため、Teamsをうまく活用し、職員連絡や共通理解、時間割、生徒配信等、チャネルをうまく使い分けながら情報共有ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの利活用によりしっかりと情報共有が図られている。今後も職員の心身を考慮し業務改善を図ってほしい。 ・地域が行う会議や防犯活動においても学校側は積極的に参加された。
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する知識を高め、高い専門性と意識をもって取り組む職員85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修で共通理解を図り、必要に応じて生徒指導及び教育相談、学年等との連携をとる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会や教育相談部会を開催することができた。就学支援委員会もスムーズに行うことができた。各担任が保護者とうまく関わり合って進められていた。教育相談の事業も、SC、SSW等と連携を取り、個々の問題に対応することができた。スムーズに運べているのも、意識が高い教員が多いことが大きな理由である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の知識向上意欲、理解しようという心構え、深さが当教育の充実に繋がっていると思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	実施結果		評価	意見や提言
				達成度 (評価)			
○家庭や地域、小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携教育の充実 ○保護者や地域への学校情報の積極的な発信 ○コミュニティスクールを核とした学校と地域の連携・協働 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は地域や保護者と協力して教育活動を行っている」と回答する地域の方・保護者80%以上。 ○「開かれた学校づくりに取り組んでいる」と回答する保護者80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会(コミュニティスクール)の運営を各学校と協力して行う。 ・学校だよりを地域に配布し、開かれた学校づくりに心がける。 ・学校HPを随時更新し、学校安心メールを積極的に活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は地域や保護者と協力して教育活動を行っていると思う」と回答した保護者90%、学校は「開かれた学校づくりに取り組んでいる」と思うと回答した保護者96%であった。 ・PTAや地域の協力により、地域人材による体験学習やキャリア教育の充実につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールなど開かれた学校づくりに前向きな姿勢がうかがえる。中学校が身近に感じられる。
○	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自重点取組・任意) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自成果指標・任意) 	・				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」の実践と、家庭学習の充実を図る指導を継続し、生徒の学力の向上を図る。また、定期テスト以外でも生徒の学力を見取り、指導の改善につなげていく。 ・キャリア教育については、1年次からの計画的、継続的な教育活動を実施していくことにより、将来の夢や目標が持てる生徒を増やしていく。 ・今年度良い評価となった項目については、次年度も実践を続け、学校教育目標の達成を目指していく。 						